音読練習について塾長が書いた開倫塾ニュース巻頭言（６回分）をまとめました。是非、お読み下さい。

秋の音読練習月間 2011 年 10 月 12 日～11 月 13 日 資料（１） **開倫塾**

2011年10月11日

音読は学力アップに役立つ

―模擬試験偏差値 55 以上・60 以上と定期テスト 100 点を

目指すなら、スラスラ言えるようになるまで「音読練習」を―

開倫塾
塾長 林 明夫

Ｑ：開倫塾ではいつも音読の話をしますね。なぜですか。

Ａ：（林明夫：以下省略）

（１）開倫塾に入塾した人で、学力、つまり模擬試験の偏差値や学校の定期テストの点数を上げたくない人はいないと思います。ただ、現実は厳しいもので、同じ開倫塾に通い同じテキストで学んでも、成績がどんどん上がる人とあまり上がらない人がいます。気力が失せたり、悩みを抱えていたりすると、成績が上がらないばかりか下がってしまう人も何人かいます。

（２）開倫塾は 32 年以上も続いており、私も開倫塾の先生方も様々な経験をしました。学力を上げる上で大事なのは勉強の仕方です。塾生の皆様には効果の上がる勉強の仕方を一日も早く身に付けてもらい、学力をどんどん向上させてもらいたいと希望しています。

（３）今の成績には全く関係なく、だれにでも、どこででも、すぐに簡単にできる最も効果の上がる勉強の仕方が音読です。

（４）音読をあまりしたことのない人ほど、音読をし始めると「アッ」という間に驚くほど成績が上がります。また、成績があまりよくない科目ほど、「劇的」に成績が上がります。

（５）この文章は、10 月 11 日に執筆し、10 月 12 日から開倫塾の全校舎で紹介されています。受験生は、今から 11 月の模擬試験まで、ここに書いた通りに音読練習をすれば、必ず偏差値は大幅に向上します。11 月の定期テストでも限りなく 100 点に近い得点ができます。どうです。挑戦してみませんか。

Ｑ：塾長がそこまでおっしゃるのなら、ぜひやってみたいです。どのように行えばよいのですか。

Ａ：（１）音読は、英語・国語・社会だけでなく、理科・数学にも絶大な効果があります。学校の定期テストに出題される音楽・美術・技術家庭・保健体育や英検・漢検・言語力検定などの検定試験にも絶大な効果があります。全科目に役に立ちますから、全部の科目でやってみて下さいね。

（2）ではどのように行えばよいのか、音読の仕方をお伝えします。

（3）まず、何を「音読」するかを決めます。①学校の教科書、②開倫塾のテキスト、③学校や開倫塾の授業のノート、④単語帳、⑤今までにやったことのある問題集とその解答・解説書、⑥参考書、⑦今までに受けた模擬試験の問題とその解答・解説集などは必ず「音読」すべきもの、絶好の「音読」の対象と私は考えます。要するに、今までに勉強した中で「これを徹底的に音読するぞ」という教材をはっきり決めて下さい。

（4）そのあとは、時間がある限り、自分で音読するぞと決めた教材をスミからスミまでゆっくりと声を出して読みます。正確にスラスラ読めるようになるまで、何回でも何十回でも声を出して読みます。教材に書いてあることはスミからスミまで覚えてしまうくらいまで、何回でも何十回でも、できれば何百回でも声を出して読んで下さい。

Q：エッ、何百回も読むのですか。

A：（1）はい。その通りです。私の尊敬する同時通訳の国弘正雄先生は、中学校時代に英語の教科書をスミからミスまで500回以上ひたすら音読し、英語の基礎を身に付けたそうです。

（2）弁護士をしていた私の弟は、法律の本を何十回も何百回も音読し、司法試験に10番以内で合格したようです。

（3）教材をスミからスミまで何十回も何百回も音読することは、英語・国語・社会に抜群の効果をもたらし、理科・数学にもとても役に立ちます。理科・数学の教科書やノート、参考書や問題集を声を出して徹底的に読み込んでみて下さい。今までに勉強したことがどんどん、どんどん正確に身に付き、成績が急上昇しますよ。

Q：書いてあることがわからなかったら、どうしたらよいのですか。

A：（1）ことばの意味がわからなければ、辞書をどんどん引いて意味を調べましょう。調べた意味をメモし、そのメモを何回も音読して意味もすべて覚えてしまいましょう。

（2）内容がどうしてもわからなければ、学校や開倫塾の先生に遠慮なく質問しましょう。

Q：音読していることは覚えたほうがよいのですか。

A：（1）はい。覚えたほうがよいです。ただ、まずは正確にスラスラ読めるようになるまで繰り返し読んでみましょうね。これだけでも、模擬試験偏差値55以上・60以上、定期テスト100点が取れますよ。

（2）スラスラ読めるようになったら、少しでもよいですから書き取り練習もして下さいね。これで、もうバッチリです。では、この文章を読んだ今日から「音読」をしてみましょう!!

開倫塾ニュース2011.12月号巻頭言

2011年6月16日

大きな声を出して読む「音読」に力を入れて、学力を身に付けよう

開倫塾
塾長　林　明夫

Q：学力が身に付かないため、成績や偏差値が上がらずに困っています。どうしたらよいでしょうか。

A：（林明夫。以下省略）

(1)簡単です。学校の「教科書」や開倫塾の「テキスト」、自分がいつも使っているハイトップやチャート式などの「参考書」でよく勉強し、書いてあることの意味がよくわかっているページを、大きな声で何回も何回もひたすら読むことです。つまり「音読」すること、これをお勧めします。

（2）すべての教科について、書いてあることの意味がよくわかり、「理解」できている「教科書」「テキスト」「参考書」などの文章の「音読」を、私は心からお勧めします。

Q：えっ、「音読」したほうがよいのは英語だけではないのですか。

A：（1）もちろん、英語の習得に音読は欠かせません。読んで意味のわからないこと、つまり「理解」できないことは聞いてもわからない、自分で発音できないことは聞いてもわからないからです。そこで、意味がよく「理解」できた内容をひたすら声を出して読む「音読」が、英語の聞き取り、リスニングには欠かせないのです。

（2）英語で最も難しいのは、英語を母国語とするネイティブの言っていることを正確に聞き取るリスニングの能力です。リスニングの能力を身に付けるために、意味がよく「理解」できている文章を大きな声を出してひたすら「音読」し、舌を鍛えて下さい。

（3）ただ、「音読」するほうがよい教科は、英語だけではありません。社会、国語、理科、数学も音読するほうがよいのです。音楽や美術、保健・体育、技術・家庭の実技４教科も「音読」するほうがよいのです。

（4）私は、大学生の時に法律を勉強していましたが、法律の条文や裁判の判例、法律の教科書も、意味がよくわかり「理解」できた文章は「音読」したほうが身に付きました。

（5）このように、法律に限らずすべての教科は、一度意味がわかり「理解」した文章は声を出して読むと身に付きます。このことはよく覚えておいて下さいね。一度意味のわかった文章は声を出して何回も読む、つまり「音読」すると身に付くという「音読」の仕方は、すべての勉強にあてはまります。一生役に立ちます。

Q：例えば、英語の教科書は何回ぐらい「音読」したらよいのですか。

A：（1）同時通訳で有名な国弘正雄先生は、中学校時代に、英語の教科書の意味のよくわかった 1 つの課を 500 回から 1000 回ぐらい「音読」なさったそうです。

（2）そこで、すべての教科について、教科書の意味のよくわかったところを 100 回単位で「音読」することを、私はお勧めします。

（3）ただし、意味のよくわからない内容や語句は、「辞書」や、ハイトップやチャート式などの各教科の「学年別参考書」、各教科の「用語集」をどんどん活用して調べましょう。

（4）漢字の読み方がわからないと「国語辞典」で調べられませんから、「漢和辞典」をいつも身近に置きましょうね。「漢和辞典」が使えない人は、一日も早く使い方を身に付けましょう。

（5）「国語辞典」や「漢和辞典」、「英和辞典」、ハイトップやチャート式などの各教科の「学年別参考書」、各教科の「用語集」は、教科書や問題集を一人で勉強し、ことばの意味や各教科の重要な内容を「理解」するときの大切な道具です。武士が戦場に戦いに行くときの武器にあたります。それを持っているかいないかで、それが使いこなせるかこなせないかで、勉強の効率が著しく異なります。必ず身近に備え置き、真っ黒になるまで、また、ボロボロになるまで使いこなしましょう。

（6）「音読」するのは、「理解」の後です。まずは何が書いてあるかがわかること、つまり「理解」することが大事です。これも忘れないで下さいね。

Q：何だかやることが多そうですね。

A：（1）怠け者には福は来ないのが勉強です。しかし、努力の積み重ねは必ず報われるのも勉強です。

（2）まずは、ありとあらゆる努力をして何が書いてあるのかの「理解」に努める。よく「理解」した後に、大きな声で読む「音読」をひたすら繰り返し行う。そうすれば、学力は必ず身に付きます。学校の定期テストで 100 点満点が取れます。これだけで、模擬テストの偏差値も 70 以上になります。この方法での勉強の努力は、必ず報われます。

Q：本当ですか。

A：本当です。学力の高い低いは、また、勉強がよくできるかできないかは、このような基本的なことをやるかやらないかで決まります。頭がよい悪いなどは全く関係ありません。努力次第で、いくらでも成績は向上します。

Q：やったほうがよいことは、まだありますか。

A：（1）「理解」をするには、学校や開倫塾の「授業をしっかり聴く」ことが最も大切です。どのようなところでも、先生の授業は大事にして下さい。わからないことは遠慮せずに質問しましょう。

（2）「音読」できたところは、何も見ずに書けるようになるまで「書き取り練習」もして下さいね。

（3）一度やった計算や問題は必ずもう一度やり直し、なぜそのような解答になるのかがよくわかったら、計算や問題を見た瞬間に条件反射でパッパッパッと正解が出るまで「計算・問題練習」を繰り返して下さい。

（4）よく「理解」できた内容についての「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」のことを、「定着のための三大練習」と私は名付けました。この「定着のための三大練習」は、皆様の学力を飛躍的に向上させます。まずは 100 回単位で「音読練習」をしましょう。「練習は不可能を可能にする」のです。

開倫塾ニュース2011.8月号巻頭言

秋の音読練習月間 2011 年 10 月 12 日～11 月 13 日 資料（3） 開倫塾

2006 年 5 月 14 日

「音読」で「定着」を深めよう!!

——「音読」と「書き取り」で、定期試験 100 点をめざそう——

開倫塾
塾長　　林　明夫

Q：「音読（おんどく）」とは、何ですか。

A：（林　明夫。以下略）「音読」とは、一度うんなるほどと「理解」した内容を「声に出して読むこと」です。

Q：「音読」と「書き取り」で「定期試験」100点をめざそうとありますが、何を「音読」すれば100点がとれるのですか。

A：「中間試験」や「期末試験」、「前期試験」や「後期試験」、「学年末試験」などのいわゆる「定期試験」で出題範囲として示されている教材のすべてが、「音読」の対象です。「教科書」、「副教材」、「問題集」、授業中にとった「ノート」、「資料集」、「プリント」などのうち、「定期試験」の試験範囲として示されたところをまずはすべて「音読」してみましょう。

Q：どのように「音読」したらよいのですか。

A：まずは、机の上を整理して下さい。次に、「音読」するものを机の上に置きましょう。そして、「音読」する範囲を確認し、心を落ち着けてゆっくりゆっくりと声に出して読み始めて下さい。初めは、よく考えながら、区切りのよいところまでゆっくりゆっくり声に出して読んでみましょう。書いてあることがよくわからなくても、試験範囲はすべて一応「音読」し通してみることをお勧めします。

Ｑ：「音読」を一通り終えたら、次はどのようにしたらよいのですか。

Ａ：内容を確認しながら「音読」してみましょう。「語句」の意味がよくわからないときは、学校で一度習ったところでも、もう一度辞書や参考書を用いて調べてみると面白(おもしろ)いのでお勧めします。それでもわからないことがあれば、学校や開倫塾の先生に遠慮なく質問しましょう。

Ｑ：「音読」は、何回ぐらいしたらよいのですか。

Ａ：最低でも５回や 10 回は「音読」し、教科書や副教材、ノートに何が書いてあるかをよく復習することが大切です。

一番よいのは、「音読」している間に書いてあることを隅(すみ)から隅まですっかり覚えてしまうことです。

Ｑ：そのようなことができるのですか。

Ａ：いくらでもできます。定期試験の範囲は狭いですから、全科目とも、「音読」をしながら教科書などに書いてあることは何から何まで覚えてしまいましょう。

問題も、よく解けるようになったら、問題そのものと解答をそっくり覚えてしまうことです。問題を見た瞬間に、条件反射で解答が口をついて出てくるようになればしめたものです。

Ｑ：「書き取り」とは、何ですか。

Ａ：「音読」した内容の中で書けなそうな語句を「楷書(かいしょ)」で書けるようになるまで練習することを、「書き取り」といいます。

教科書などの書体を「楷書」といいます。数字は、数学の教科書にある書体で書けるようにして下さいね。英語は、ブロック体や筆記体の書き方を正確に身に付けましょう。マンガ字や自分勝手に崩した字は、テストのときに大量の答案用紙を採点する採点者がよく読めず、得点にならないことがあります。

Ｑ：最後に一言どうぞ。

Ａ：「音読、音読、また音読」で試験範囲の内容を隅から隅まですべて覚え、「書き取り、書き取り、また書き取り」で試験範囲の内容をすべて「楷書」で書けるまでにしましょう。

今日から、試験問題が配られる１分前までこの方法で勉強すれば、全科目とも 100 点がとれます。

開倫塾ニュース2006.6月号巻頭言

2004年9月21日

練習は不可能を可能にす

－偏差値 10 アップ実現のために－

開倫塾
塾長　林　明夫

Q　「練習は不可能を可能にす」とは、どういうことですか。

A　（林明夫。以下省略）慶應義塾長を昭和８年から昭和 22 年までお務めになった小泉信三先生のお書きになった本の題名が、「練習は不可能を可能にす」です。平成 16 年４月に慶応義塾大学出版会から発行されたものです。「無数の不可能が練習によって可能となる。練習によって我々は不可能を可能にする。」この真理を体育会の生活つまりスポーツによって身に付けることの大切さを、小泉先生はこの本で訴えておられるものと思います。

皆様も本屋さんでこの本をお探しになり、是非お手元においてゆっくりとお読みになることをお勧めします。スポーツの素晴らしさ、スポーツマンシップとは何かがわかりやすく書かれています。

Q　「練習は不可能を可能にす」と偏差値10アップの実現はどう関係するのですか。

A　私には、スポーツも勉強も同じように思えます。短距離を専門とする男子の陸上部員にとって 100 メートルを 11 ～ 12 秒台で走ることはあたりまえかもしれませんが、全く練習しない人にとってそれはほとんど不可能です。なぜ短距離ランナーが 100 メートルを 11 ～ 12 秒台で楽に走れるかと言えば、練習に練習を重ねてきたからであります。

同様に、実力試験である一定以上の偏差値を取ることは、とても厳しいことです。高い偏差値が取れるのは、それなりの勉強を積み重ねてきたからです。練習に練習を積み重ねた人だけが 11 ～ 12 秒台で走れる 100 メートル走と同じで、勉強に勉強を積み重ねた人だけが高い偏差値を取ることができます。

十分に練習を積み重ねればよいタイムが出るのと同様に、十分に勉強をし続ければテストの成績つまり偏差値は必ず上がります。

特に、偏差値 60 以下の人は、練習をしていないのと同じですから、基礎的な勉強を積み重ねるだけで確実に偏差値 60 が実現します。

Q　勉強を積み重ねるだけで偏差値60以上になるのですか。本当ですか。

A　「うん、なるほど」と一度「理解」した内容が、何も見ないでスラスラ口をついて言え、何も見ないで正確に書けるようになり、簡単な問題なら考えなくても条件反射的に解答が出せるようになる、つまり「定着」のための作業をコツコツ積み重ねれば、偏差値 60 は取れます。

この「定着」のための作業には膨大な時間がかかります。

Q　偏差値60は何を意味するのですか。

A　進学できる学校が驚くほど増え、皆様の人生の選択肢が一気に広がることを意味します。自由に生きたければ、「定着」のための作業を積み重ね、偏差値 60 の壁を突破することです。

Q　偏差値60以上を目指すには、どうしたらよいのですか。

A　11 ～ 12 秒以内で 100 メートルを走る陸上部員が基礎体力をつけながら、自分のフォームを直しつつ試合経験を積むように、偏差値 60 以上を目指す人は、実力試験や模擬試験の結果のうち、間違えた問題を自分で分析し、なぜ間違えたのかその理由を明らかにすることです。「理解」不足なら、その内容をもう一度教科書や参考書で読み、「うん、なるほど」と納得することです。どうしても納得できなければ、学校や開倫塾の先生に遠慮なく質問してください。わかってはいる、つまり「理解」はできているが、うろ覚えであったり、正確に書けない、ケアレスミスをしたというのであれば、「定着」のための作業をコツコツすることです。「理解」と「定着」はできているのだが、「応用力」不足の場合は、まずはやさしい「応用問題」から入り、少しずつ難易度を上げていくのが最善です。

偏差値 60 以上の科目は、100 メートルを 11 ～ 12 秒台で楽に走れる陸上部員と同じように、自分自身の強みと改善点を知った上で、毎日タイムを計り、11 秒、10 秒と 1 秒ごとの壁を破っていくような勉強方法が必要です。本番の前に対外試合もいくつか体験し、反省材料にすることも欠かせません。

Q　スポーツと勉強は似ているのですね。

A　はい。部活動だと思って受験勉強に励むことを私はお勧めします。

スポーツでは、地区大会で入賞して県大会に参加することは難しいですが、入学試験は 1 つの学校に何百人も合格するのですから、確実に偏差値を上げさえすれば必ず合格します。

「練習は不可能を可能にす」。この言葉を胸に自分自身を励ましながら、偏差値 10 アップを目指しましょう。では、頑張ってください。

家庭で勉強できない人は、先生の許可を得て、開倫塾の「自習室(空いている教室)」で「自主学習」することをお勧めします。無料です。ただし、おしゃべりや携帯電話使用は絶対禁止です。

開倫塾ニュース2004.10月号巻頭言

1999 年 5 月

大きな声で英語の文章を読もう、丁寧な文字で英語を写そう

開倫塾
塾長　　林　明夫

１．はじめに

「どうしたら一生使える英語が中学校と高校で身につくか」が、私の最大の研究テーマでした。結論めいたことがわかりかけてきましたので、少しずつ説明させて頂きます。

塾生の皆様のみならず、保護者の皆様や社会に出られた方々にも役に立つかもしれませんので、是非お読みの上、実際にやってみて下さい。

２．一生使える英語を身につけるには

（１）中学校や高校、学習塾で勉強している英語にあまり間違った内容はありません。なぜ日本人は英語が不得意なのかといえば、中学校や高校、学習塾でせっかく習った内容が、本当の意味で身についていないからです。「とりあえず、中間・期末テストや入試でよい点が取れればいいや」とテスト対策で勉強をして、テストが終わった後に本格的な勉強、つまり英語が身につくための勉強をしていないからです。

（２）それでは、英語を身につけるために、「テスト」が終わってからしたほうがよいことは何か。せっかくテストのために勉強して、ある程度まで内容がわかったのですから、まずは「大きな声で習った英文をひたすら読む」ことをお勧めします。教科書の１課から習ったところまでを、大きな声で一日に何回も読むことです。

（３）次に、よく読み込んだ文章を、何回も丁寧に書いてみること。「習った文章が口をついて出る」「手が自然に動き、習った文章を書いてしまう」、テストが終わったらここまでを迷わずにやることです。

３．おわりに

（１）意味がよくわかった内容の文は、大きな声でよく読めるまでにし、口をついて出るようにしておくこと。ゆっくり丁寧に書く「くせ」をつけること。

（２）とりあえずこの二つの作業をコツコツやるだけで、テストだけ受けてその後は何もしない人と比べると、格段に実力がつきます。

（３）「努力はむくわれる」のが語学の勉強です。コツコツがんばりましょう。

開倫塾ニュース１９９９.5月号巻頭言

1994 年 12 月

大きな声でただひたすら英語を読むこと

－一生使える英語を身につけるための基礎知識－

開倫塾
塾長　　林　明夫

1．はじめに

（1）「なぜ日本の人はこんなにも英語を話すことが不得意なのか」と、先日、中国の上海に出掛けたときに何人かの人から言われた。これから、外国に出ることや、外国の人と単なる遊びだけではなく仕事をすることもますます増えると思われる。そのときに使われる言語は「英語」であると考えられるので、今回は、どうしたら一生使える英語がマスターできるかを考えたい。

（2）もちろん中国の人に接するときは「中国語」、ベトナムなら「ベトナム語」、ラオスなら「ラオス語」、モンゴルなら「モンゴル語」のほうが、それも、各国のその地方で使われている言葉のほうが意思の疎通が上手にいくに決まっている。その国の文化や社会を深く理解するには、その国の言葉を基礎からしっかり勉強すべきである。だから、小学生であろうと学びたい国の言語はしっかり勉強してほしい。

（3）しかし、何といっても、どこの国に行っても、ある一定レベル以上の人に必ず通じる共通語は英語である。日本に来る人すべてが日本語をマスターしている訳ではないが、日本人が外国に行く場合と比べかなり多くの人が英語を上手に話すことはよく知られてきた。

（4）どうしたら、日本に来ている英語を母国語としない外国の人と同じレベルで英語が使えるようになるかが今回のテーマなので、よく読んで、できることからどんどん実行に移して頂きたい。この文章をお読みの保護者の皆様の中で、英語を是非勉強したい方は、今からでも遅くありません。残りの 50 年の人生を充実して生きるためにも、この文章を参考にして英語に取り組んで頂きたい。

2．ただひたすら読むこと（只読）のススメ

（1）ゆっくりでも速くてもよいので、自分の好きなスピードで、とにかく大きな声でただひたすら英語のテキストを読むこと。時間を何分と決めないで、気が向いたら、何十分でも、何時間でも英語の本を大きな声を出して読むこと。これが一番よい。

（2）できれば、意味のよくわかった学校や塾の教科書を読むとよい。一度習ってよくわかっているものであれば、これはどんな意味だろう・文法的にはどうかなどと面倒なことを考える必要はないので、とにかく読んでいて楽しい。

（3）中学 3 年生や高校生ぐらいになると難しいことも時々書いてあるから大変かもしれないが、中学 2 年生ぐらいまでなら教科書は全部覚えてしまうとよい。

（4）一行ずつ何十回も暗誦すること。学校や塾で一つの課を勉強し終えたら、必ずその課の最初の行から大きな声で読みながら丁寧に覚えていくことをお勧めする。教科書を見ながら一つの文を何回も読み、よく言えるようになったら、今度は見ないで 5 ～ 10 回言ってみる。見ないで完全に言えるようにまでしたら、次の一文をまた見ながら読んでみる。よく読めるようになったら、見ないで言ってみる。見ないで言えるようになったら、最初の文と合わせて見ないで言ってみる。二つの文を見ないでスラスラ言えるようにする。二つの文が見ないで言えるようになったら、三つ目の文を見ながら大きな声で読んでみる。よく読めるようになったら、三つ目の文も見ないで大きな声で言ってみる。見ないで言えるようになったら、一つ目の文、二つ目の文と合わせて、三つ目の文まで見ないで一気にスラスラ言えるまでにする。

（5）このような形で、たえずその課の最初の文まで立ち返って、1 課分がスラスラと口をついて出てくるようにするとよい。これは難しそうだが、やってみると意外にやさしい。また、楽しくできる。

（6）最初の課が終わり、次の課に入るときには、最初の課を大きな声でただひたすら読んでから、新しい課に進むとよい。たとえば第 3 課に入るときは、第 1 課と第 2 課をただひたすら大きな声で読んでから、第 3 課の内容を最初の文からすべて覚え込むようにするとよい。このようにして、最後の課まで 1 年かけて勉強すると、皆さんがこれから生きる 80 年間以上ほとんど忘れない。一生使える英語が身につく。

（7）高校 3 年生になっても、いつも中学 1 年生の教科書から大きな声を出して読んでおくことをお勧めする。高校 1 年生ぐらいの文が口をついてどんどん出てくれば、どんなに難しい大学にも合格する。

（8）11 月 23 日の勤労感謝の日に足利商工会議所青年部の主催で「両毛クラシッククラリー」が開かれ、100 台以上のクラシックカーが両毛地区 120 ㎞を走った。車の持ち主は、出掛ける前、途中、終った後に自分の車をたえず整備し、ピカピカに磨き上げていた。クラシックカーを愛する人は「ものを大切にする人だ」と思った。英語も同じで、クラシックカー愛好者が何日かに 1 回ワックスをかけてピカピカに磨き上げたり、決められた距離を正確に走れるように整備したりするのと同じように、一度勉強して身につけた英語は一生かけて丁寧に丁寧にたえず手をかけることが大切ではないかと思う。

（9）中間試験や期末試験、模擬試験、入学試験でよい点が取りたかったら、試験範囲について十分に学習したところをひたすら大きな声で読み、読めるようになったところからどんどん覚えていき、それが終ったら何も見ないで書いてみる（つまり「暗写」する）ことをお勧めする。「暗写」が正確にできれば、5 段階評価で 3 の人は 4 に、4 の人は 5 に必ずなれる。

(10) 偏差値も 50 以上→ 60 以上→ 70 以上とどんどん急上昇する。「暗写」ができたら、開倫塾でお渡ししている各種の予想問題集をどんどんやること。大事なことがよくわかり、よく読めるようになり、すべて書けるまでになっているのだから、ほとんど条件反射的に解答することが可能。問題集をやっても全部スラスラできるので、勉強が楽しくなる。

(11) これから大人になって海外旅行に行くときには、行く 2 ～ 3 週間前になったら中学校・高校時代に勉強した英語のテキストを取り出して、1 日何時間かひたすら大きな声で読むとよい。外国旅行中も、飛行機の中やホテルで時間があったら、学校時代のものを読んでみること。驚くほど英語が口をついて出てくるハズ。保護者の方でもう一度勉強し直したい方は、まずその手はじめに、中学 1 年生と 2 年生の英語のテキストを大きな声でひたすら読んでみて下さい。中学 1 年生と 2 年生のテキストなら、意味もある程度わかるし(わからなかったらお子様や塾の先生に聞いて下さい)、持ち運びにも便利。
*もし、中学生用のテキストがほしい保護者の方は、実費でお分けしますので、開倫塾の先生に御連絡下さい。

３．おわりに

（１）まだまだいろいろな方法があるとは思うが、今回は、「ただひたすら英語の教科書を大きな声で読むこと」が一生使える英語を身につける第一歩であることを述べさせて頂いた。

（２）一点突破・全面展開ということばがあるが、一つの簡単なやり方でも、5 年 10 年と継続してやっていると大きな成果が上がる。

（３）最後に一言。このように、学校時代の英語の教科書は一生使えるものなので、その学年が終ったからといって捨てることなく、一定の場所にキチンと保存しておくことも大事。英語だけでなく、すべての教科の教科書も上級学校で役に立つし、社会に出てからも役に立つ。一生役に立つので絶対に捨てないこと。

開倫塾ニュース１９９4.12月号巻頭言